

平成15年 ホッケ計量魚群探知機調査報告

北海道立稚内水産試験場資源管理部 電話：0162-32-7177 (高嶋)

- ・ 4月22～24日に仙法志堆海域（利尻根・折込根周辺）において、試験調査船北洋丸により魚群探知機調査を実施し、音響データを収集しました(図1)。
 - ・ 水温は、昨年(平成14年)同時期より2～3℃低めでした(図2)。
 - ・ 魚群の全体量は、どちらの根においても、昨年同時期の3分の1程度でした(図3)。
 - ・ 釣りでは、体長26～28cm(昨年より大きめ)のホッケが多く釣れました(図4)。
- ただし、釣れた尾数の6割以上が、ホッケ以外の魚種(主にアカガヤ)でした(図表省略)。
- ・ これらの結果から、今年の仙法志堆ではハルボッケの集中が遅れているか、あるいはホッケの全体量が少ないと考えられるので、春漁では盛漁期の遅れ、あるいは漁獲量の減少が懸念されます。

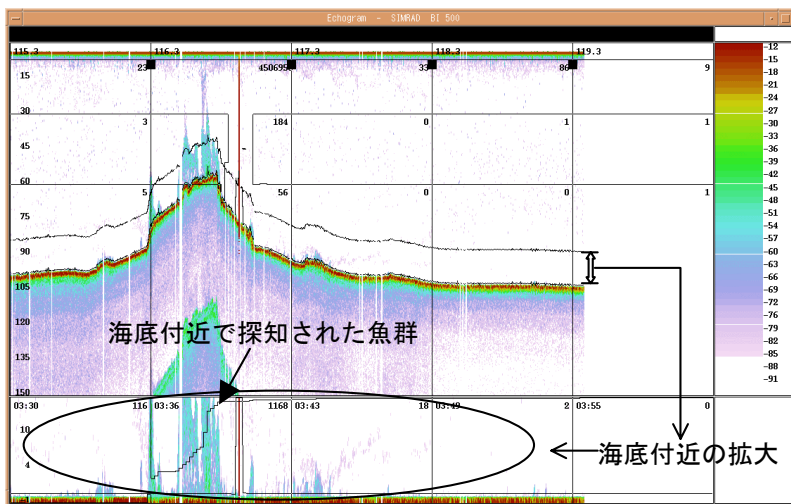


図1 利尻根付近のエコーグラム(魚探画面)

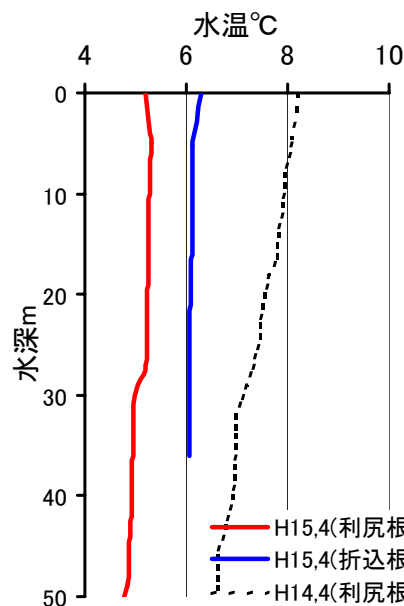


図2 調査海域における水温

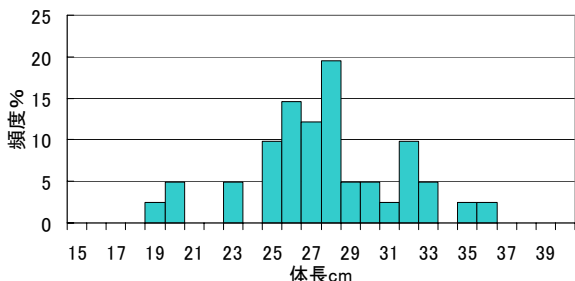


図4 折込根で釣れたホッケの体長組成

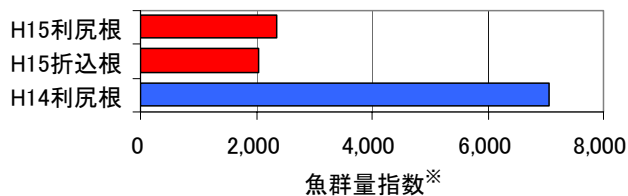


図3 分布していた魚群量の比較

※魚群量指数：魚の総量を魚探反応を基準にして表した数値です。

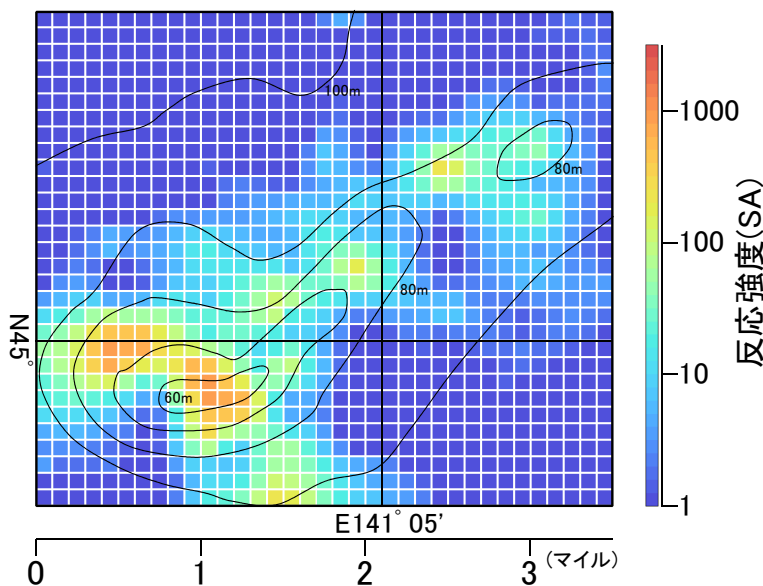
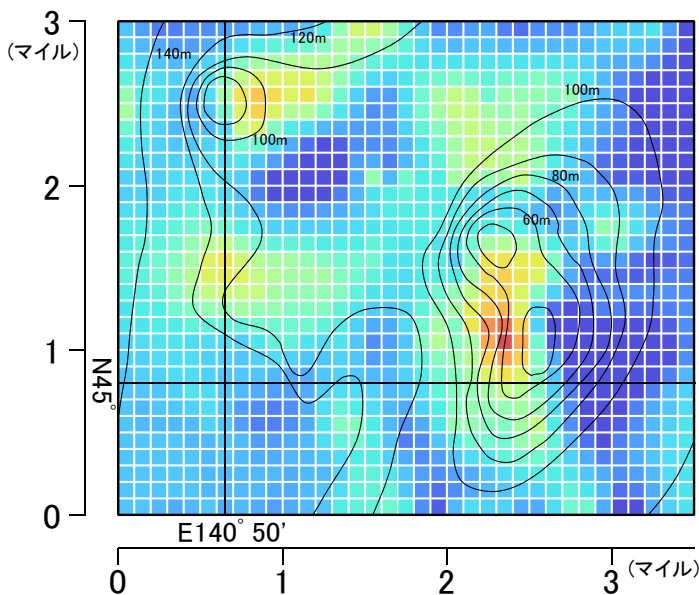


図5 魚探反応の強さで表した魚群分布(左：折込根、右：利尻根)

(色が赤に近い場所ほど、魚が多く分布する)